

華岡青洲は、全身麻醉薬「通仙散」を創製後、一八〇四年世界で初めて全身麻醉による乳ガンの摘出手術に成功しました。そして、和歌山に医学塾兼病院として「春林軒」を創設し、一八一六年大阪中之島に末弟の鹿城が分塾「合水堂」を開設しました。

華岡流外科の門人数は、現存する「門人録」によれば、一七八〇年から一八八二年の間に、総勢約二二〇〇人になります。最先端の医学知識、医術を求めて、全国各地から集まった医師の半数は「合水堂」で学んだと推察されます。

「合水堂」は、上方文化の中心でもあった大阪から情報を発信して、わが国の医学の発展への大きな業績を遺しました。

二〇一五年は南洋の没後一五〇年、二〇一六年は「合水堂」開設二〇〇年にあたります。

この顕彰碑の建立によって、華岡流医術の歴史が末永く伝えられることを願っています。

建立 華岡青洲弟鹿城末裔

日本医師学会

協賛 日本麻醉科学会

後援 第二九回日本医学会総会二〇一五関西

二〇一五年四月吉日